

設定の理由

園庭で見つけたアブラムシが「黄色」に集まることに気が付いたことをきっかけに、『色』に対して不思議さや面白さを感じ始めた。そこで、身近な環境の中にある様々な『色』に触れていきながら、自分なりのイメージを広げ、豊かな感性を養うようにしていくために色をテーマに設定した

活動事例①～この虫は何色が好き？～

ねらい

昆虫が集まる『色』に興味をもつ

用意した環境

色シート・図鑑・模造紙・色紙

活動内容

- 園庭に「色シート」を設置し、色の上に乗った虫の観察をする
- 模造紙上に各色の折り紙を貼り、各色集まった虫を色別に分けていく

子どもたちの様子

- アブラムシの経験があったので、園庭の数か所に色シートを設置すると、他にどの昆虫が集まるのかに興味をもって観察していた
- 自分たちの思うように色シートに昆虫が集まらない時は、園庭で見つけた「みみず」「てんとうむし」を色シートに乗せて、どこに移動するか調べていた
- 色シートで観察したことをもとに、自分たちなりに仮説を立てて、模造紙にまとめていた



振り返りと気づき

- 自分たちにも「好きな色」があるように、普段身近に触れている昆虫にも好きな色があることがわかり、「色」に対してさらに面白さを感じているようだった
- 今後は、様々な角度から「色」と向き合えるような探究活動を取り入れていきたい



活動事例② ～自分の好きな色はどんな色？～

ねらい

色づくりのワクワクを通して、色への興味や探究心を育む

活動内容

- 色の三原色である赤・青・黄の色水を使い、子どもたち自身の手で様々な色を作る遊びをする
- 三原色による混色を体験し、偶然の発見を楽しむ

用意した環境

食紅・水・プラスチックカップ・スポイト・色見本



子どもたちの様子

- 講師の先生を招き、色水遊びを行った。色見本を見ながらスポイトを使って混色あそびを始めると、色が少しずつ変化していく様を面白がっていた
- 色を作っていく中で、「ピンク色が作りたいけど、どうしても上手く作れない」という声があがった
- 5歳児は「同じ青でも、明るい青と暗い青があるね」と明度に気が付く姿があった

振り返りと気づき

- 混色あそびは、スポイトを使うことで、1滴単位で少しずつ色が変わっていく様子を見たり、わずかな色の違いを創り出したりすることができることがわかり、年齢によっては有効な用具であることがわかった
- 3原色では作り出せない色があること、または色の明度に子どもたちが遊びを通して気が付いた。この気づきをどこまで探究していけばよいか、講師の先生に質問したが、あくまでも幼児期は遊びの中で「面白さ・不思議さ」を受け止めていくだけで十分だということだった

活動事例③ ～ 全身で色と遊ぶ～

ねらい

色と心を思い切り開放し、自由に表現しながら遊ぶことを楽しむ

活動内容

- 屋上の広い場所を使い、全身「色まみれ」になってぐちゃぐちゃ遊びをする
- 巨大紙に、スポンジ・ローラー・卓球ボールなどに絵の具をつけて色をつける

用意した環境

絵の具・模造紙・ロール紙・スポンジ・ピンポン玉・ローラー



子どもたちの様子

- 始めは模造紙に前回の混色あそびの続きで、2色の絵の具のグラデーションづくりをした。紙の四方から少しずつ絵の具を塗り広げていくと、2色が混ざり合っていく様を楽しむグループ、ダイナミックに色を塗り広げ模造紙いっぱいに混色を楽しむグループがあり、グループによっても個性が出ていた
- 「ローラーを使って、色の道を作ってみよう」の言葉をきっかけに模造紙から屋上いっぱいのロール紙へ色遊び(ぐちゃぐちゃ遊び)を広げた。初めこそ躊躇する子もいたが、最後は洋服が絵の具まみれになるほど、全身で楽しんでいた

振り返りと気づき

- スポンジやピンポン玉、ローラー等、色の線を描く際の用具を取り入れたことで、よりダイナミックなぐちゃぐちゃ遊びを楽しむことができた
- また、「思い切り色遊びを楽しむ」ためには、それに見合った環境をしっかりと設定することの大切さを改めて実感した

活動事例④ ～ 季節の色さがし ～

ねらい

季節のイメージを色と結びつけ、色を捉える力を養う

活動内容

- 様々な季節の絵本を鑑賞し、どのような色を選んで季節を表現しているのかを考え、友達と色のもつイメージを共有する
- 絵本に使われている色を選び取り、それぞれの季節に合う色を言葉ではなく視覚的に選び出す
- 絵の具の三原色と白を使い、「私が考える特別な春の色」など、具体的なイメージをもった色を創り出す

用意した環境

絵の具・色紙・プラスチックカップ・スポイト・季節の絵本



子どもたちの様子

- 「それぞれの季節にどんな色がたくさん使われているか」を様々な季節の絵本を見ながら、グループごとに季節の色探しをした。初めは、同じ色を探そうとする姿があったが、次第に「夏は青がいっぱいある！」「秋は落ち葉の茶色が多い」などグループの友達と気づいたことを話し合う姿に変わっていった
- 自分たちで探した色を、絵の具で作っていった。作った色を季節ごとに分けて比べていくと「春は明るい色だね」など、自分たちなりにイメージを伝えあっていた

振り返りと気づき

- 季節の色をもたせるためのツールとして、外部講師からのアドバイスで「絵本」を取り入れた。同じ絵本でも、子どもによってもつイメージは様々で、面白かった「物の感じ方、捉え方は人それぞれ」でそれを受け止めていく大切さをこういった活動からでも、子どもたちに伝えていけたらよいと感じた